

熊本県宇土市網津町方言の 比喩語について

村上 敬一

はじめに

1. 調査対象地：宇土市は、県の中央部、宇土半島の根元に位置する。北側を熊本市と接し、東は有明海に面している。市の南北を国道3号線とJR鹿児島本線が貫き、東西に走る国道57号線とJR三角（みすみ）線の分岐点となっている交通の要所である。世帯数は9514戸、人口33,390人。有明海の遠浅の海岸を生かした海苔の養殖や、半島丘陵部を利用した柑橘類の栽培が盛んである。中心市街地は田園都市の様相を呈し、交通の便が良いことから、熊本市のベッドタウンとして広がりがつある。
 2. 調査年月日時：1992年12月28日 午後 3時～ 4時30分
 3. 話者：寺田ミエ子氏 大正12年12月24日生（69歳）
 4. 調査者・調査場所：村上敬一・話者宅の居間
 5. 調査方法：調査票に基づいて尋ねる方法をとった。話者の寺田ミエ子氏は、同じ上益城郡の益城町で生まれ、網津町に嫁ぎ、よそに住んだことがない生え抜きである。同氏は元海苔漁師で、現在は海苔の行商を営む。
- 注：【補足】に用いたデータは、1989～1990年に熊本県全域で行った調査から引用した。

I 《自然現象》

1. 日照り雨 ヒノテリアメ （日の照り雨）
〈名〉 中・老年層 盛 古。 日が照っているときに降る雨。
2. 入道雲 ニュードグモ・ニュードグモ（入道雲）
〈名〉 少～老年層 盛。
3. 旋風 ウズマキ（渦巻）
〈名〉 中・老年層 盛 古。 風が渦を巻いてまわるところから。
5. つらら スダラ（簾）
〈名〉 中・老年層 盛 古。 簾と形が似ているところから。
6. 北斗七星 ヒシャクボシ（杓星）

〈名〉 老年層 稀 古。 杓の形に並んだ星だからか。

7. 昂 ニュードボシ (入道星)

〈名〉 老年層 稀 古。 並んだ形が入道雲に似ている星。

II 《動物》

9. かわはぎ ウマンツラ (馬の面)

〈名〉 中・老年層 盛 古。 顔が面長で、馬の面に似ているところからの比喩。

11. ひきがえる ウシワクド (牛蛙)

〈名〉 中・老年層 盛 古。 恰好が牛に似ている蛙の意。

一般に「がまがえる」を指す。

【補足】「ワクド」は熊本県では北部・東部の中年層以上に多い。南部や天草では「ドンク」となる。しかし、両形あわせても使用率は約30%である。共通語形の「カエル」は中・高生で94%の使用率であった。

12. 青大将 シラクチ (白朽ち)

〈名〉 中・老年層 盛 古。 家に住んでいて白っぽい朽ち縄であるから。他はすべて「ヒラクチ」と言い、使い分けをしている。

15. みずすまし ゴキ (御器)

〈名〉 中・老年層 盛 古。 黒光りしてお椀に似ているところからの比喩。

18. ふくろう ホホドリ (ほうほう鳥)

〈名〉 中・老年層 盛 古。 鳴き声が「ホーホー」と聞こえるところから。

ネコドリ (猫鳥)

〈名〉 中・老年層 盛 古。 顔形が猫と似ていて、猫と同じように夜も目が見えるところから。

III 《植物》

20. とうもろこし トーキビ (唐黍)

〈名〉 中・老年層 盛。 外来の黍ととらえる。

21. いんげん豆 タチワケ (太刀はき)

〈名〉 中・老年層 稀。 たちはき（太刀はき）がさしている刀と豆の莢の形が似ているところから。

22. そら豆 ナツマメ（夏豆）

〈名〉 中・老年層 盛。 夏に出来る豆。

23. 木くらげ ミミナバ（耳茸）

〈名〉 中・老年層 盛。 茸はすべて「～ナバ」となる。耳の形をした茸の意。

27. からすうり ヘクソカズラ（屁糞かずら）

〈名〉 少～老年層 盛。 実の匂いが屁や糞のように異臭を放つところから。

IV 《性向》

32. 熱しやすく冷めやすい人 アキヤスノスキヤス（飽き易の好き易）

〈句〉 中・老年層 盛。 飽きっぽいのにすぐ好きになって熱中する人。

33. あわてん坊 オロタエヒョーグワン・オロタエホーガン（うろたえ判官）

〈名〉 中・老年層 盛。 あわてるは「ウロタエル」となる。

34. 動作の鈍い人 グズロ（愚図ろ）

〈名〉 中・老年層 盛。 愚図愚図して判断の鈍い人。

37. おしゃべり アゴタレ（顎垂れ）

〈名〉 中・老年層 盛。 アゴは口先のよく動く様をいう。タレは人を罵って言う接尾語。「嘘つき」の意でも使用されることがある。

38. 冗談言い ヒョーゲモン（ふざけ者）

〈名〉 中・老年層 盛。 ふざけは「ヒョーゲ」（剽げ）となる。気軽に人を笑わせること。

39. 口先だけの人 アゴバカリ（顎ばかり）

〈句〉 中・老年層 盛。 アゴは口先のよく動く様。バカリはそれのみの意。

41. のらりくらり煮えきらない人 グズロ（愚図ろ）

〈名〉 少～老年層 盛。 愚図愚図して判断の鈍い人。

42. おこりっばい人 カンシャクモチ (癩癩持ち)
 <句> 中・老年層 盛。 神経質で些細なことにも立腹する人。
43. 気むらな人 オテントサン (御天道さん)
 <句> 中・老年層 盛。 変わりやすい日和を人に譬えたもの。
44. 泣き虫 チャンメラ (ちゃんめら)
 <名> 少～老年層 盛。 メラメラと泣き崩れる様子から。
45. おてんば娘 オトコマサリ (男勝り)
 <句> 少～老年層 盛。 男に勝るとも劣らない様子から。
46. 腕白坊主 ニガポーズ (苦坊主)
 <名> 少～老年層 盛。 平気で苦々しいことをする男の子。
47. 出しゃばり タイショーズキ (大将好き)
 <句> 中・老年層 盛。 どんな場にもしゃしゃり出てくる人を「大将」と皮肉をこめて呼ぶところから。
49. 家にもって外出しない人 ハンドガメ (飯銅瓶)
 <名> 中・老年層 盛。 飯銅瓶は水瓶。重くて、めったに外に出すことがないところからの比喩。
50. 小心者 キモノスンチイサカ (肝の巣が小さい)
 <句> 中・老年層 何事にも驚いたり物おじしたりする様子。
53. 妻に対して頭の上がない男 コシマキカブリ (腰巻冠)
 <名> 中・老年層 盛 下。 妻に頭の上がない夫の様子が、頭に腰巻 (ふんどし) をかぶっているようだから。
54. けち ケチタレ (けちたれ)
 <句> 少～老年層 盛。 けちなやつ。タレは人を罵っている接尾語。
55. 欲張り ヨクタレ (欲たれ)

〈句〉 少～老年層 盛。 欲深いやつ。タレは人を罵っている接尾語。

V 《食生活》

56. 大食漢 ウーグライ (大食らい)

〈句〉 中・老年層 盛。

57. ぼたもち アンツケダゴ (餡付け団子)

〈句〉 少～老年層 盛。 餡を付けた団子の意。団子は「ダゴ」となることが多い。 例：団子汁→「ダゴシル」

58. 砂糖味が薄い サトヤントーカ (砂糖屋が遠い)

〈句〉 老年層。稀。古。 長崎地方を中心に、この種の言い方が盛んに使用される。宇土市網津町は、有明海を挟んで長崎県と接している。

59. 塩味が薄い シオケンタラン (塩気が足りない)

〈句〉 中・老年層。

60. 大酒飲み サケクライ (酒食らい)

〈句〉 中・老年層 盛。

61. 酒に酔ってくだをまく スイキョースツ (酔狂する)

〈動〉 中・老年層。盛。

62. 酒に酔って赤くなった顔 ベンツラ (紅面)

〈名〉 中・老年層。盛。

VI 《動作・様態》

63. 恥ずかしくて顔が赤くなる ツラナシ (面無し)

〈句〉 中・老年層。盛。

65. ずぶ濡れの様子 ショボヌレ (しょぼ濡れ)

〈形動〉 中・老年層。盛。

66. 服装がだらしないさま ズンダレ 〈名〉 少～老年層 盛。

〈名〉 少～老年層 盛。 幼児, 子供がシャツの裾を出していると「ずんだれとる

ぞ」と大人から注意される。

67. 髭が伸び放題なさま ダテヒゲ (伊達髭)

<名> 中・老年層。盛。下。 付け髭でもしているかの様子。

68. 厚化粧をしている人 コテヌリ (鍍塗り)

<名> 中・老年層 盛。下。 いかにも鍍を使って化粧をしたように見えるところからの比喩。コテヌルという動詞形はない。

70. 出びたい デボチン (出額)

<名> 中・老年層。下。 「チン」は人を茶化す時につける接尾語。名前にもついてあだ名になる。例：松本→松チン (マッチン)

73. 口をとがらす トンギラグチ (とがらかした口)

<句> 中・老年層。

74. 焦げ臭い スボレクサカ (燻る臭い)

<句> 老年層。

75. 遠廻り ナベンツルマワリ (鍋の鉉廻り)

<句> 老年層。 鍋の把手を廻るように遠廻りすること。

76. 末っ子 スツタレ

<名> 中・老年層。盛。下。末っ子の末に、人を罵る接尾語「タレ」がついて促音化したもの。

77. 一生懸命頑張る ガマダス (我慢出す)

<句> 中・老年層 盛。娯楽を我慢して仕事に精を出すという意であろう。仕事以外には、殆ど使うことはない。

まとめ

1. 直喩による単純な造語が多い。
2. 「タレ」「チン」などの接尾語を多用して、卑罵、誇張などの表現効果をみせる。

(むらかみ けいいち 広島大学大学院)